



面接と信長



齋藤 夏来（日本史学）

私がつとめていたある学校では、面接で「尊敬する人物」を尋ねることは禁止されていました。信教の自由と同じことだからです。多くの教育機関でも同じだと思います。就職面接などでは尋ねられることがあるかもしれませんが、しかしそのようなことを尋ねてくる会社があったとすれば、その会社は個人の内面の自由という事柄をわきまえていないということになりますので、こちらから願い下げにした方がよいかもしれません。

というわけで、たとえば織田信長を尊敬するかどうか、もちろん個人の自由ではあるのですが、歴史的にはなかなか受け入れにくいところがあります。歴史史料をみてゆくと、命を懸けてでも信長に抵抗した人々がたくさんいたことは確実で、そのことをどう考えるか？という問題があるからです。歴史は多面的に考えることがとても大切です。

さて、歴史は多面的に考える必要がある、ということが分かった人には、次のお題があります。別に信長を研究していたわけでもなかった私の教え子が、ある教員採用試験の面接で、こう尋ねられました。

「なぜ、歴史で信長を教える必要があるのですか？」

私なら、信長に限らず、歴史上の異質な他者を理解しようと想像力を働かせる営みは、人間的な優しさを育む可能性があるから、と答えます。もちろん、これで合格となるかどうかは分かりません。みなさんならどう答えますか？（豊田市長興寺所蔵の織田信長画像の模写・Y.H画）

分野・専門紹介—File7

日本と世界で活躍する日本語教師

分野・専門名：日本語教育学

日本語教育学分野では、研究も教育もできる日本語教育人材を育成しています。修了生の多くは日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、トルコなど国内外の日本語教育・研究機関に勤務して、日本語教育のリーダとして活躍しています。大学のほか中等学校の教員や公務員として日本語教育の知識を生かして働いている人もいます。また、留学生の場合、高度な日本語運用能力を生かして、日本企業や外国企業の日本担当部門で活躍している人もいます。

授業では「私は山田です」と「私が山田です」はどう違うか、「10時に寝ます」と「10時で寝ます」はどう違うかというような類義表現を題材として、外国人にどのように説明したら分かりやすいかを受講生と一緒に考えています。本分野には日本人だけでなく様々な国から来た留学生がたくさんおり、様々な言語と比較しながら日本語の特徴について分析しています。

本分野は学部を持たない大学院専担の研究室です。学生の学部時代の専門は日本語学や日本文学に限

らず、各国の言語・文学、歴史学、文化学、哲学、心理学、教育学、経済学、法学のほか、理系の学問を修めてきた人もいます。また、企業や学校で社会人として働いていた人もいます。学生たちはこれらの知識を生かすことにより、新たな発想による日本語教育の研究をしています。

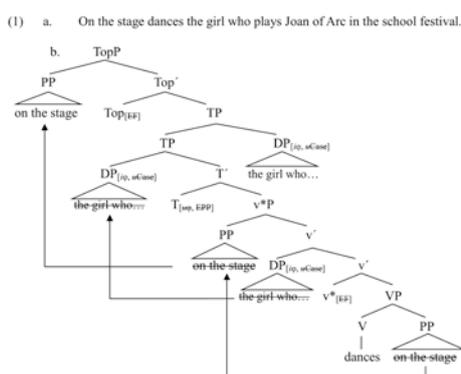
日本人学生の場合、博士後期課程の期間中に大学をはじめとする海外の日本語教育機関へ日本語を教えに行く人もいます。本分野の学生は日本語教育のコツを心得ているため、赴任先での評価も高いです。その経験を活かして、修了後は日本や世界の各地で日本語教育に関わる仕事をしています。



(杉村 泰・教授)

分野・専門紹介—File8

英語をたよりに、人間の本質に迫る



分野・専門名：英語学

すべての人は、言葉についての教育的指導を受けずとも、また、ある表現がその言語において可能な表現であるという直接の証拠を与えられずとも、まわりで話される言葉を聞いているだけで、生まれてから短い間に言語を習得します。人間以外の動物も意思疎通をしますが、人間の言語ほど豊かなコミュニケーション体系を持ちません。また、言語習得は脳などの器官に障害を持たない人であれば誰でも可能であり、ノーベル賞学者のような頭脳明晰さや、スポーツや芸術における才能のようなものも必要としません。従って、言語は人間という種に固有の属性であるということになります。本研究室では、英語という人間言語をたよりに人間の本質を探ります。生成文法研究と以下では呼びます。

生成文法研究にあたり、研究室の学生は、その提唱者である Noam Chomsky という言語学者の分析手法を学びます。そして、その分析手法の立場から、現代・過去の英語のデータを観察し、英語母語話者の脳にある英語という言語がどのようなものであるかを探ります。実際の研究においては、たとえば写真にあるような樹形図を用いるなど、論理的な思考が求められます。培われる思考能力は、高校生の皆さんが将来どのような進路をとっても役に立つものとなります。

さて、学問の内容だけ聞いていると、とても難しいことのように感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、心配ありません。研究は孤独に行うものではありません。研究室の仲間と一緒に学びを深めていきます。本研究室では、年中行事として新入生歓迎会、合宿、クリスマス会等を開いており、親しみやすい環境が整っています。皆さんと共に研究できる日が来ることを、心待ちにしております。

(森 敏郎・博士前期課程2年)

最近の文学部

8月10日はオープンキャンパス！

この4月から名大文学部の英語名称は「School of Humanities」となりました。ますます活発になった研究・学習の場の現状に触れたい方、是非オープンキャンパスへ。各研究室も公開され、学生や教員に直に質問できるチャンスです。2018年度版の学部パンフレットやこの『月刊名大文学部』83号の配布も予定されています。(YK記)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)